

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 11 月 25 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 46,000～52,500 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 46,000～48,000 ドル
(S&P500) 6500～7000

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 24,500～26,200
(ナスダック総合) 22,500～24,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～158.500 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

今年 4 月 7 日安値(30,792.74 円)を起点に、約 7 カ月間にわたって続いたインターミディエイト級第(5)波の上昇は、52,636 円(11/4)を以て終了したとみられます。それと共に、コロナショック底(16,358.19 円、20 年 3 月)から 5 年 8 カ月にわたるプライマリー第③波も終了したと思われます。

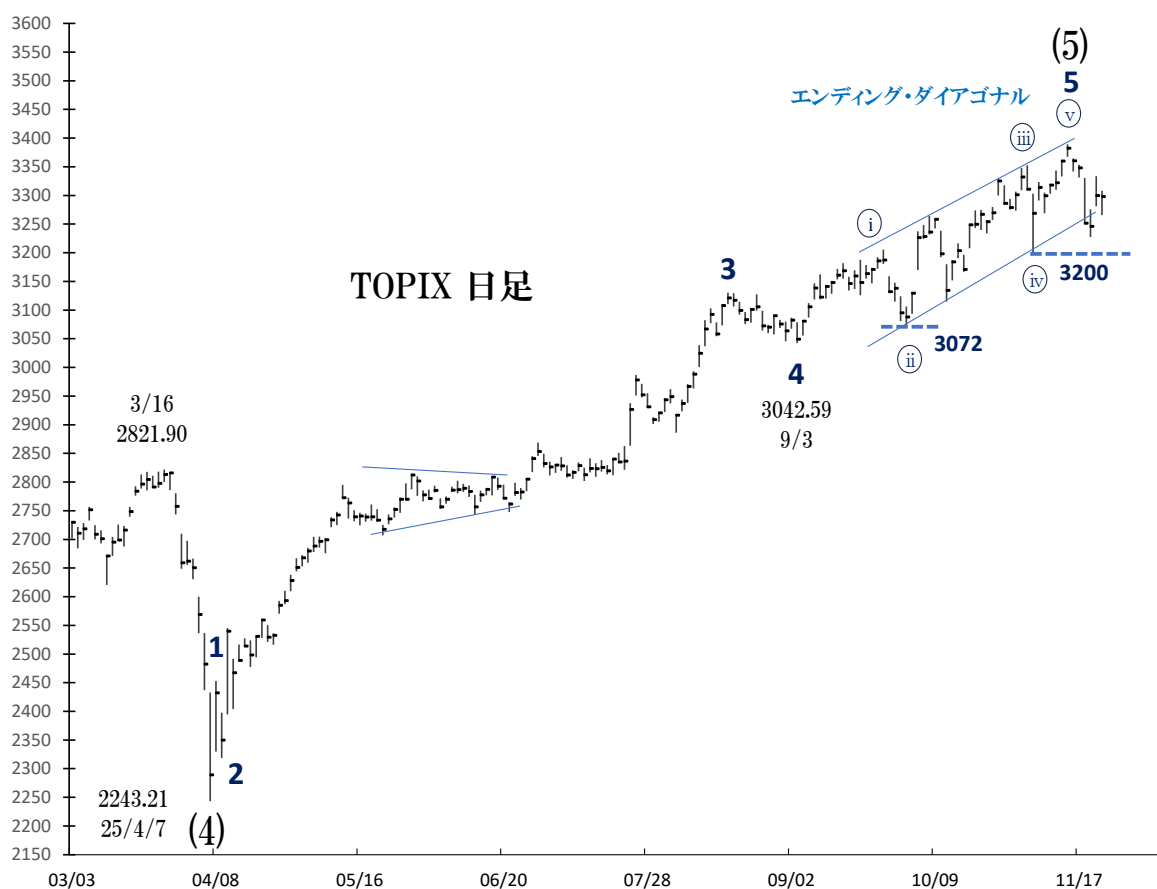
この見方が正しければ、いまはプライマリー第④波調整の初期段階に当たります。それは当面、2026 年 2 月頃(※)へ向けて弱基調となるでしょう。

(※)週次サイクルの間隔(安値から安値)は 42 週程度です。これによると、現行サイクルの終了は、今年 4 月 7 週から 42 週程度を経過する 2026 年 2 月頃と想定できます。

プライマリー第②波は 18 年 10 月高値(24,448 円)から 20 年 3 月安値(16,358 円)まで、17 カ月間で通算 33%下げました。パターンは「ジグザグ」でした。

「オルタネーション」により、第④波はおそらく「トライアングル」「フラット」など保ち合いパターンを、今後数年間にわたって形成する可能性があります。

④波の下値レンジに相応しいのは、第③波中第(4)波領域[42,426 円～30,792 円]です。この領域は、11 月高値から 33%調整後の水準(35,266 円)を含みます。

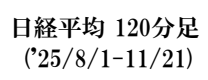


[TOPIX]

9 月安値(3042)からの上昇第 5 波「エンディング・ダイアゴナル」は、3389(11/13 高値)で完了したと思われます。

短期的には 3200(11/5 安値)を打診するでしょう。3200 を終値で下回ると、上昇トレンドの終わり調整局面への基調転換が明白になるでしょう。

ひとたび調整がスタートすれば、3049(ダイアゴナル始点)まで速やかに下落する展開が想定されます。



[日経平均]

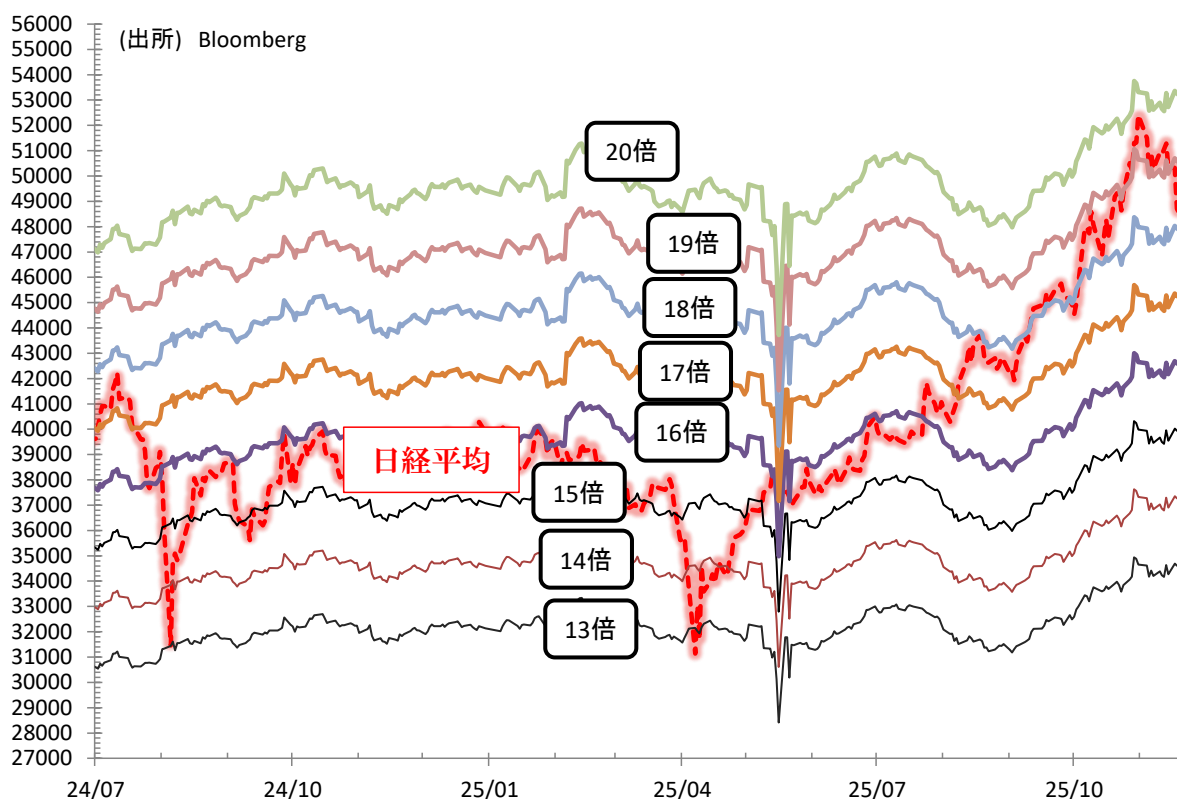
51,513 円(11/11 高値)から、第(iii)波による下落が進行中とみられます。第(iii)波中最初の副次波としての第 i 波は 48,235 円(11/19 安値)で終わり、そこからは(iii)-ii 波によるリバウンドに位置付けられます。

このリバウンドが「フラット」を形成するのなら、今後 1~2 週間内に 50,574 円付近まで上昇が見込めるかもしれません。

反面 48,235 円を割ると弱気トリガーが発動し、(iii)-iii 波(サード・オブ・サード)の急落局面がスタートするでしょう。この場合、10 月初旬のギャップ[45,778 円~46,544 円]を早々に埋めに行く展開となりそうです。

[予想 PER 別の日経平均水準]

11 月 21 日の日経平均予想 PER は 18.42 倍、予想 EPS は 2639 円です。前日 20 日に予想 EPS は 2694 と過去最高水準を更新しました。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

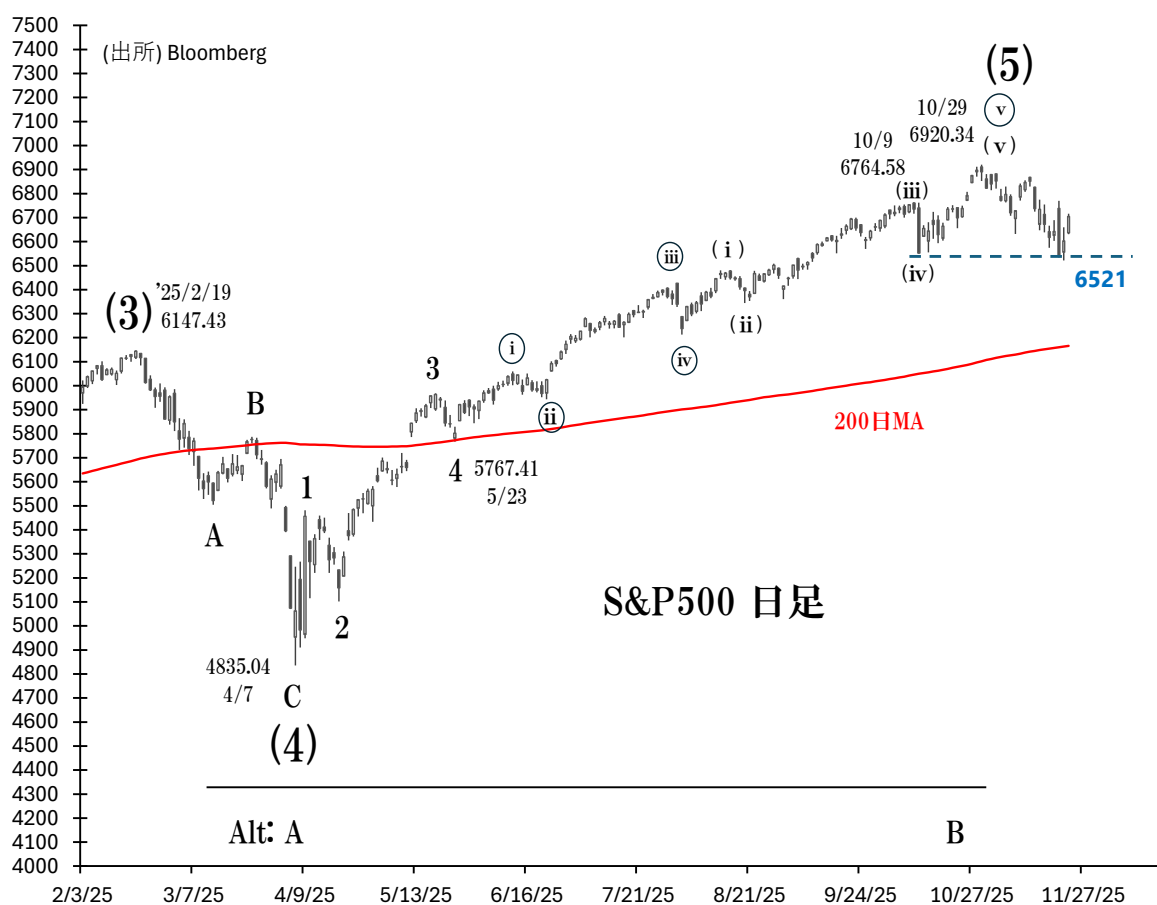
11 月 12 日の最高値(48,431 ドル)は、他の主要インデックスにより確認されておらず「未確認」となっています。強気相場は完了した可能性があります。

(プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20%安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における B 波とカウントされます。このシナリオによれば、今後の下げ局面でも、最終的に 4 月安値(36,611 ドル)は維持されます。その後 1~2 年程度のみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6920(10/29 高値)を以て強気相場は終了した可能性があります。

6521(11/21 安値)はヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインとなっており、それを割ると、リスクオフ局面に拍車がかかる可能性があります。

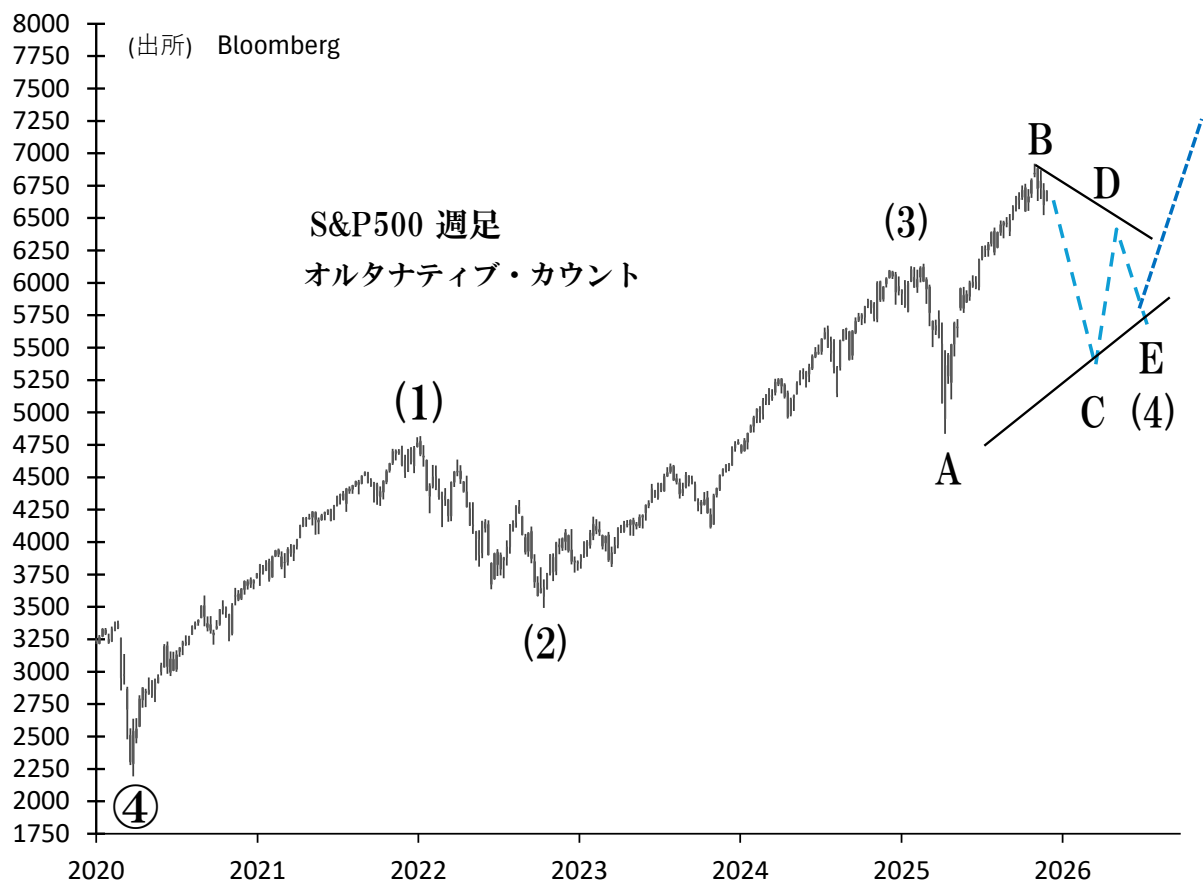
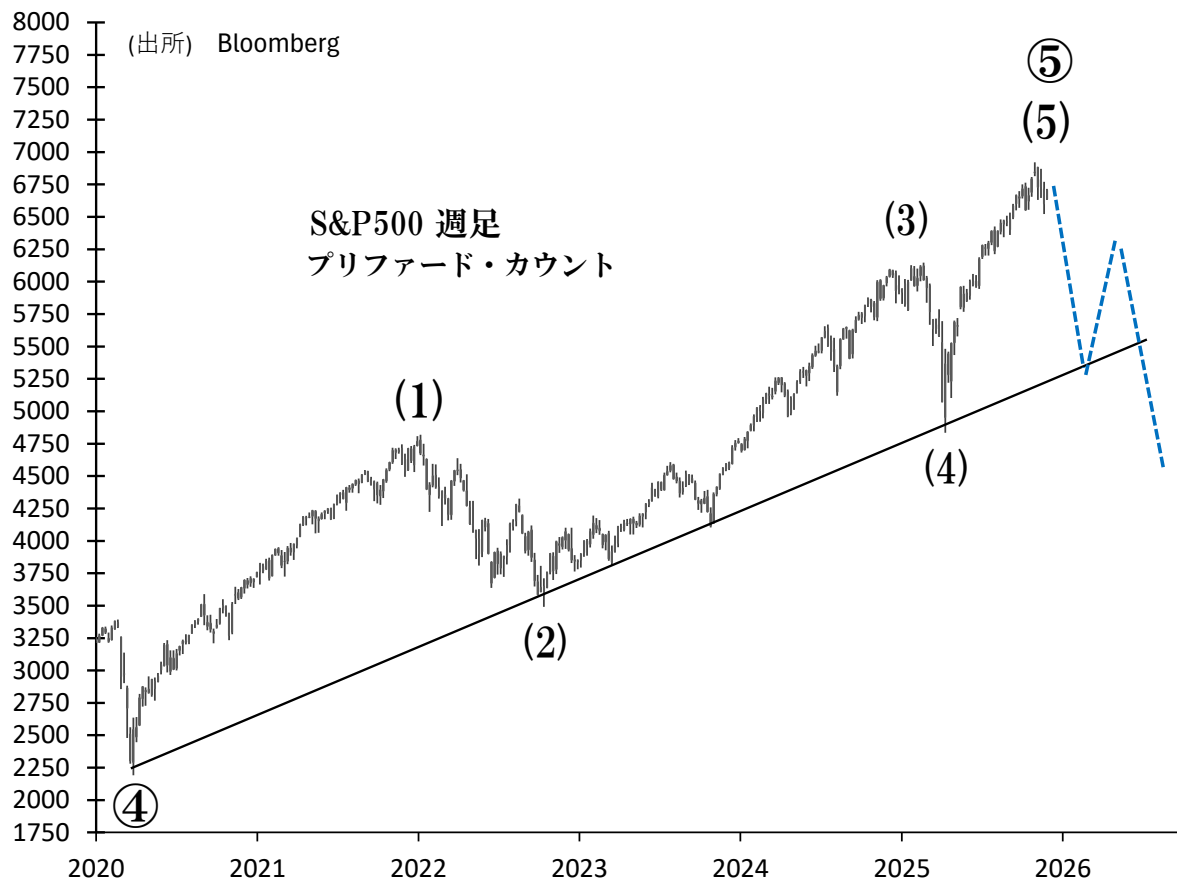
【S&P500 長期エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

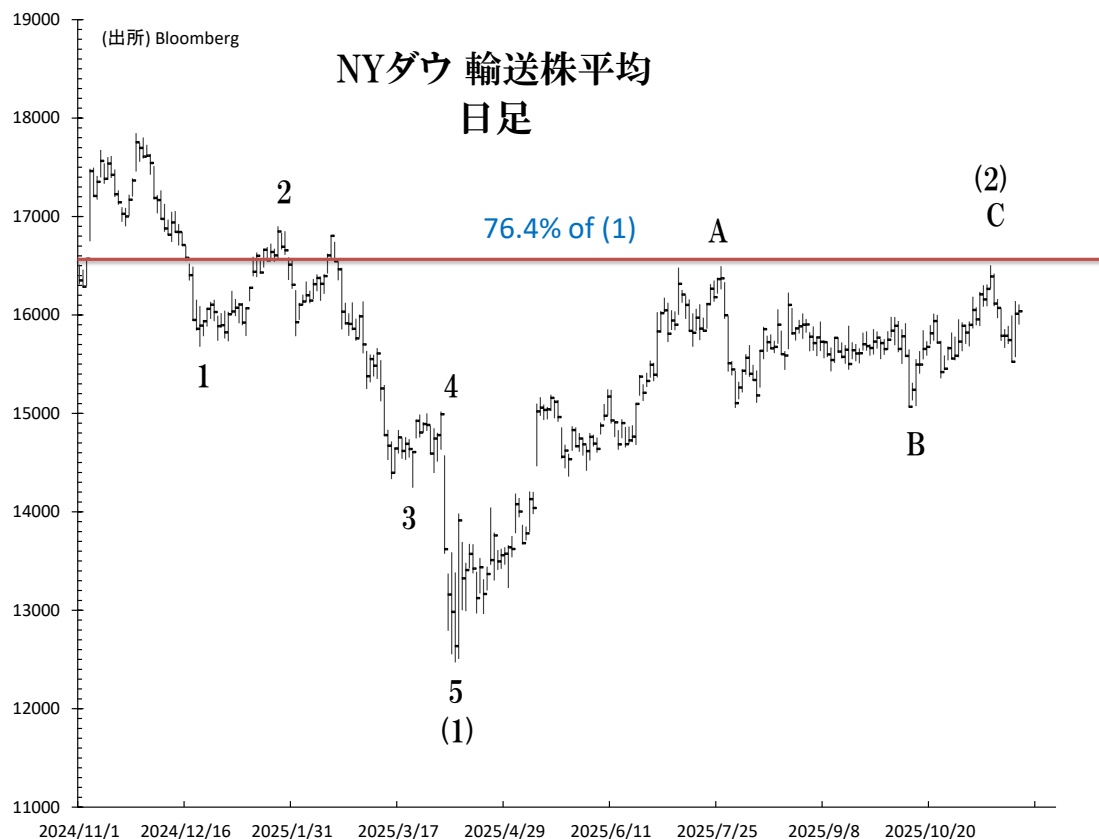
4 月安値(4835) からのインターミディエイト級第(5)波は完了し、数年間にわたる調整となります。その過程で 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

(オルタナティブ・カウント)

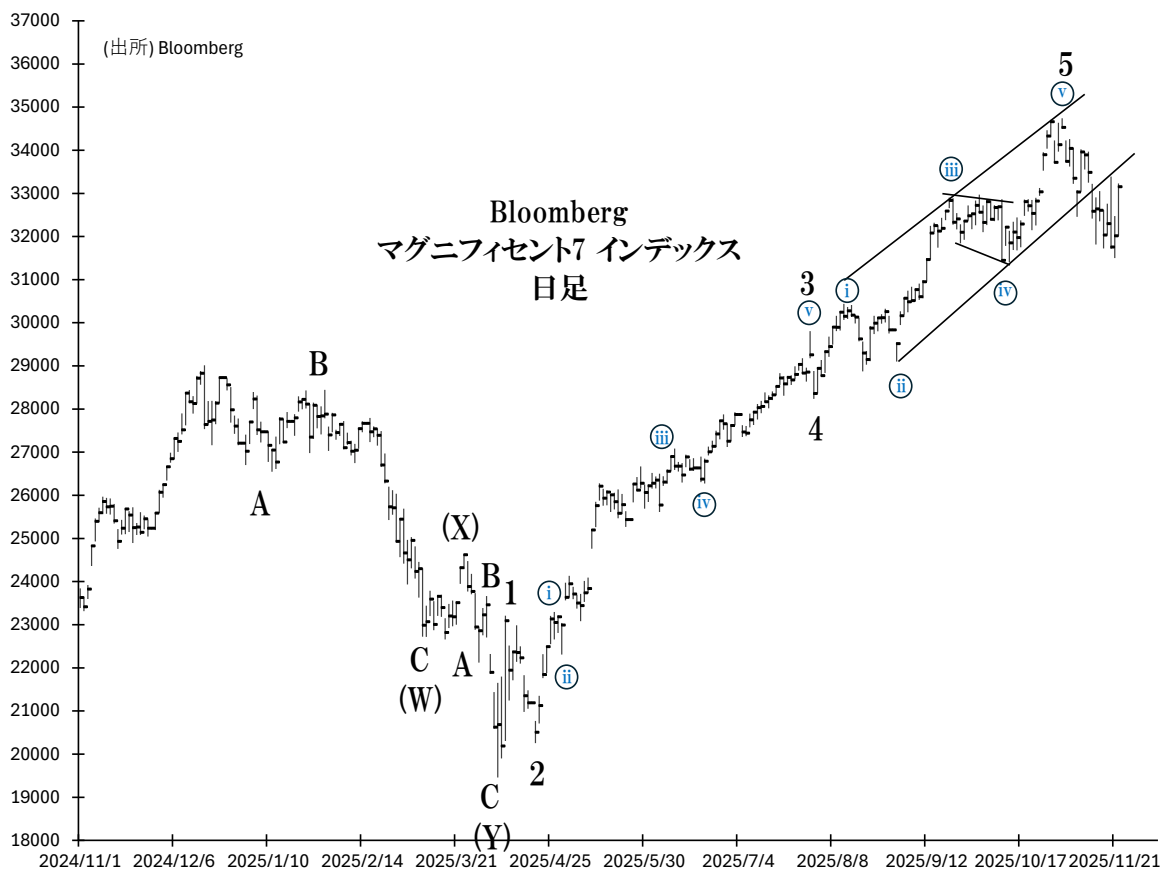
今年 2 月からの第(4)波「ランニング・トライアングル」(A 波～E 波)中、B 波の高値を付けたとみられます(B 波の上げ幅は、A 波の下げ幅に対しおよそ 1.618 です)。この見方通りなら、C 波の下落がスタートしたことになります。C 波は少なくとも A 波と同じ下げ幅になるとみられ、ここからは 5600 処が下値目標として導かれます。

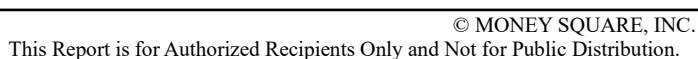


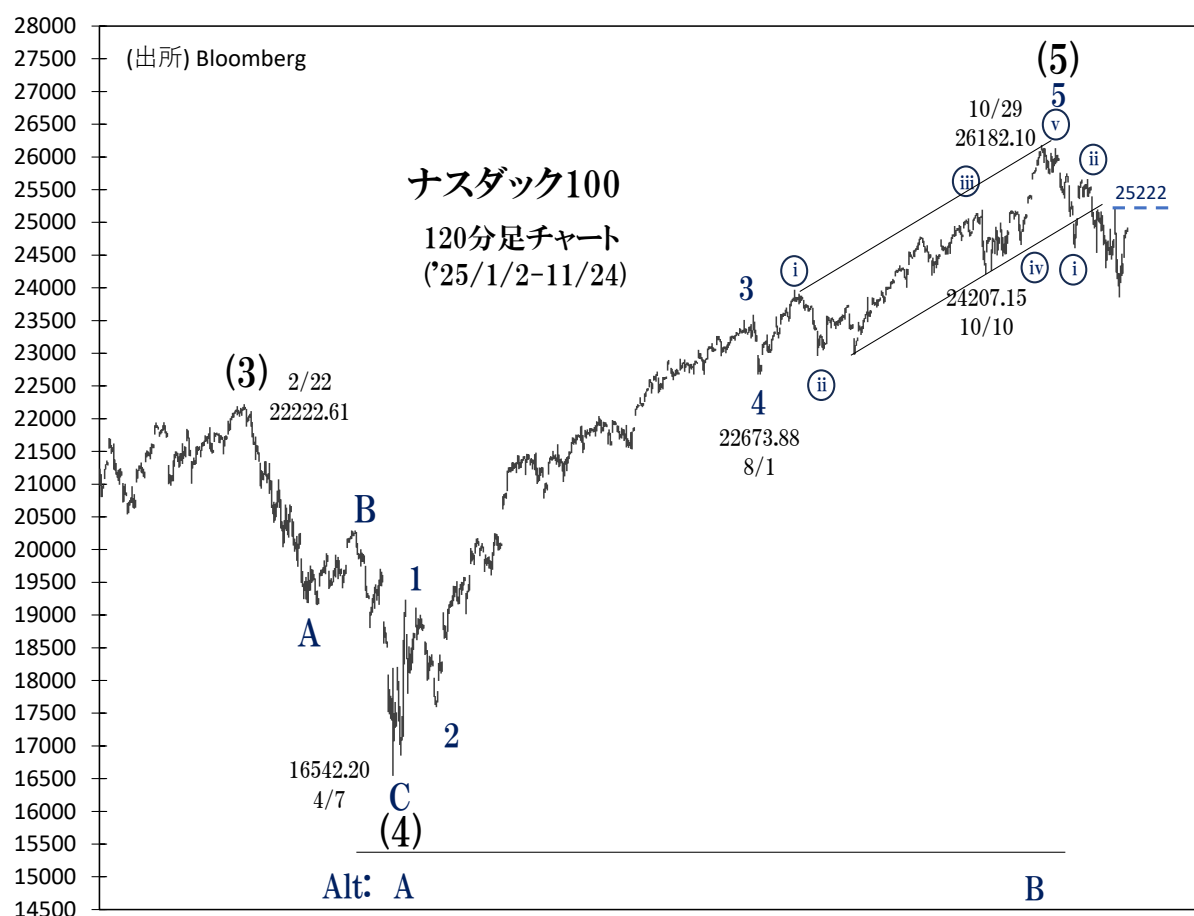
[ダウ輸送株平均] ダブル・トップか



[マグニフィセント 7] 以前のサポートラインが戻り上限に?







【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

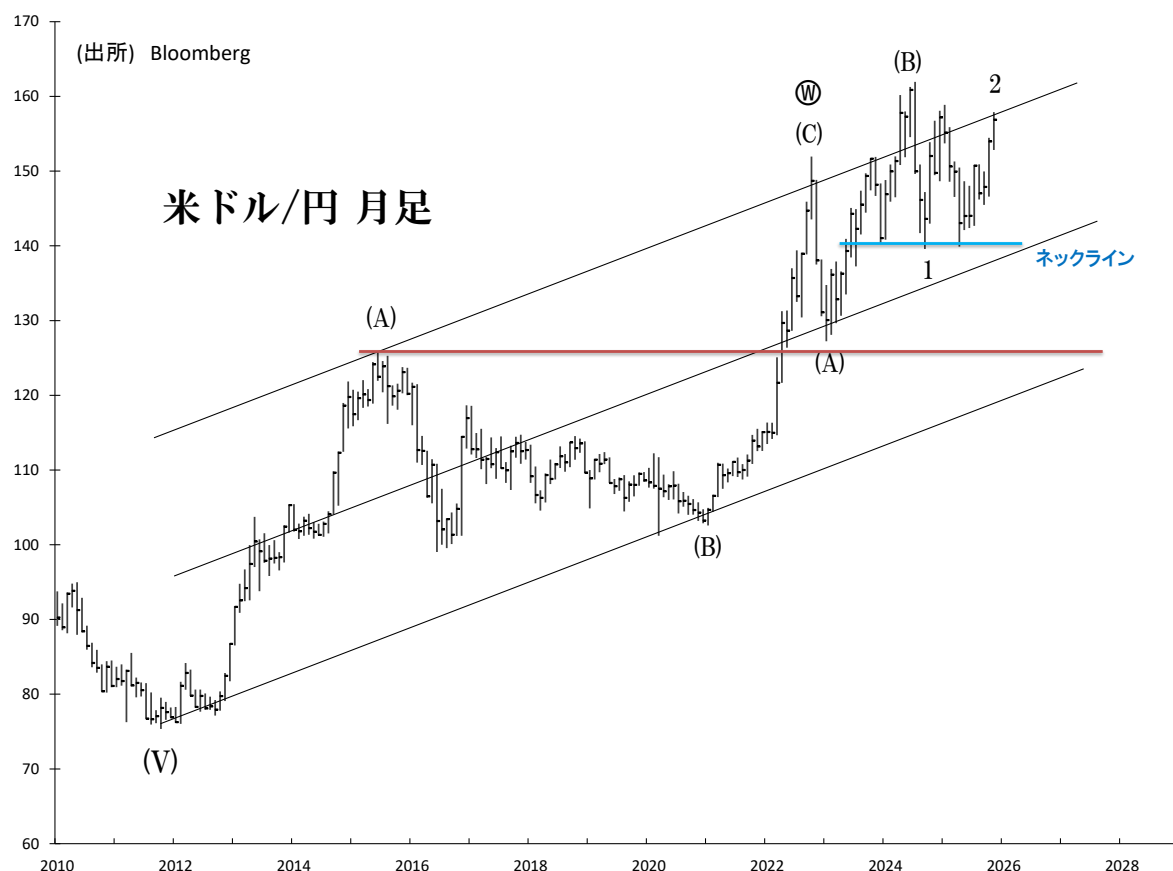
22,673(8/1 安値)からのマイナー級第 5 波は、26,182(10/29 高値)を以て完成した可能性が高く、これから本格的なリスクオフ局面(弱気相場)への備えが必要でしょう。

11 月 21 日に一時 23,854 と 2 カ月ぶり安値まで下げましたが、24 日は大きく反発しました。4 月からの上昇に対する 23.6%押し[23,907]によりサポートされた格好です。

10 月高値 26,182 からは、第 1 波と第 2 波を繰り返す「ワン・ツー・ワン・ツー」で下げているようにみえます。短期的には、25,222(11/20 高値)付近へのリバウンド継続もありそうですが、遠からず「サード・オブ・サード」の大幅な下落波がやってくる可能性があります。

ひとたび本格的なリスクオフ局面に入れば、ナスダック 100 は当面 [22,499~20,224]を目指し下落するでしょう。このレンジは、4 月からの上昇に対し 38.2%~61.8%押しです。

米ドル/円



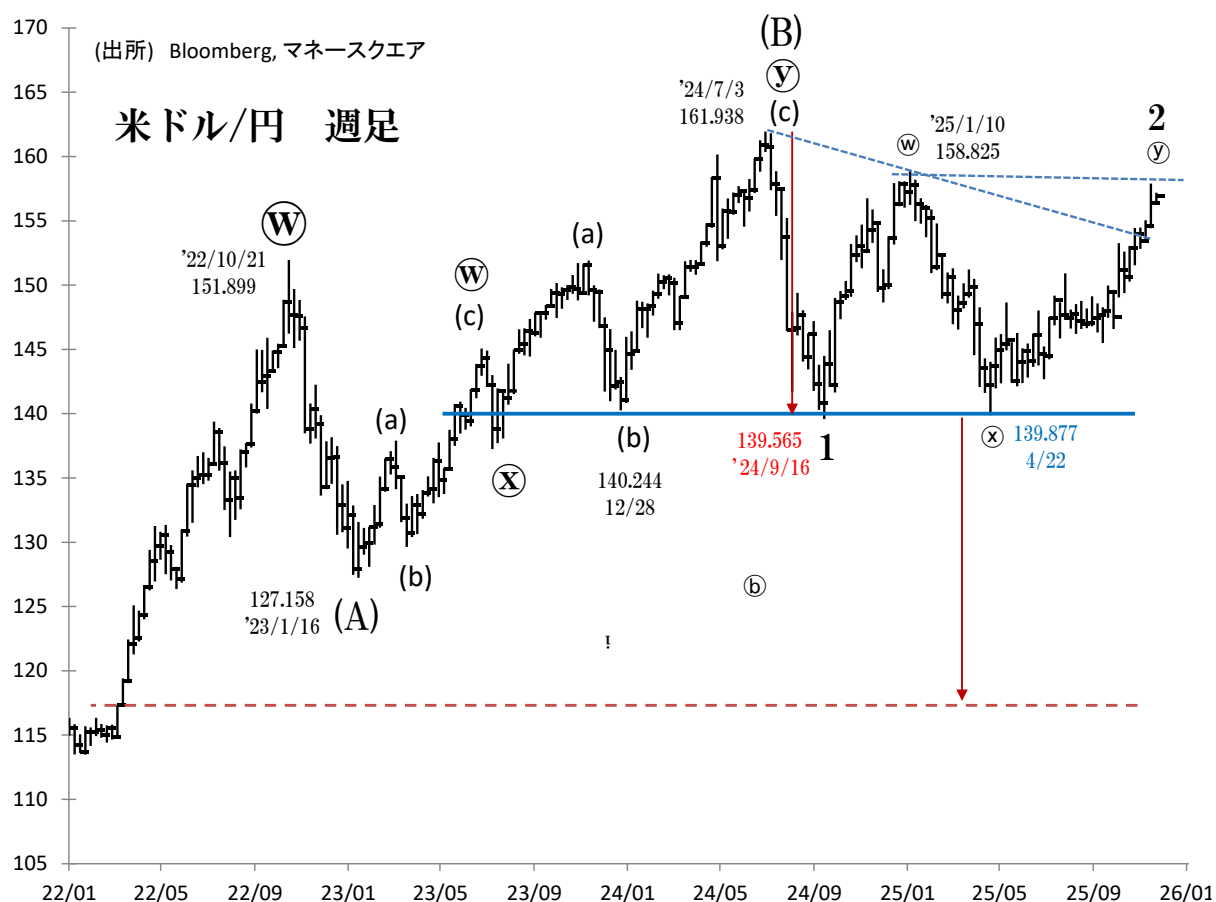
【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1 ドル = 125 円 ~ 120 円へのドル安・円高になる可能性をみています。

今月は一時 157 円台後半と、1 月以来のドル高・円安水準となりました。この動きによりドル/円は、長期チャネル上限に達するとともに、昨年の円買い介入ゾーン(157 円 ~ 161 円)への突入をはたしました。

日米実質金利差から導かれるドル/円の水準は、現在 1 ドル = 140 円程度(後述)です。足元の日本円は金利差から妥当と思われる水準に比べ過小評価されており、そんな状況は遠からず修正される可能性が高いでしょう。

ドル/円の上昇は既に限界を迎えたか、迎つつあります。今後はドル安・円高トレンドへの転換が、いつ起きてもおかしくありません。



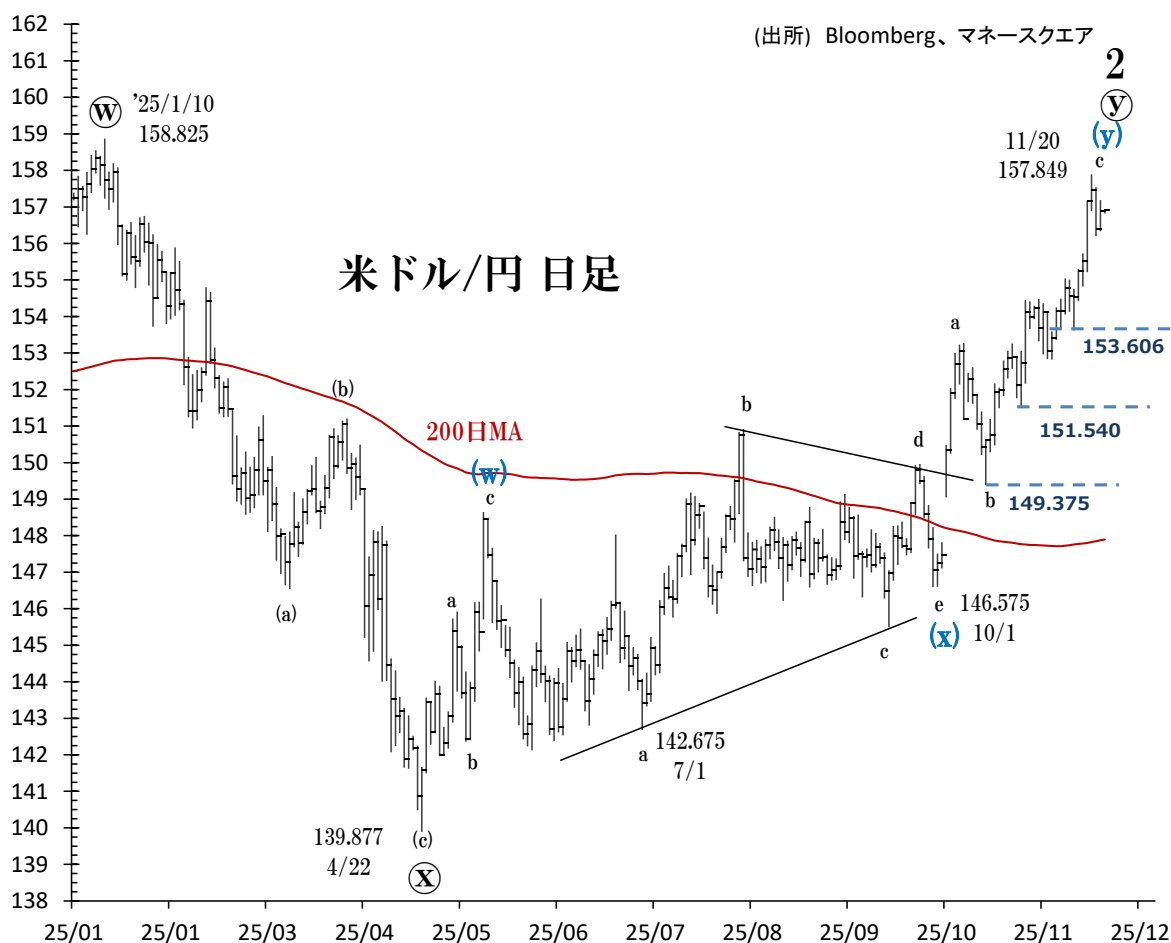
【週足 エリオット波動分析】

これまで「今年 1 月 (158.825 円) から第 3 波によるドル安・円高が進行中」とみていましたが、それを以下のように改めます。

24 年 9 月安値 (139.565 円) からの第 2 波によるリバウンドは継続中です。この第 2 波は一見すると「フラット」(3-3-5) ですが、厳密には「ダブル・スリー」(W-X-Y) というパターンです。

4 月以来のドル高・円安 Y 波は—158.825 円を伺う必然性はありません—まもなく終了、第 3 波によるドル安・円高が始まるでしょう。

第 3 波の下げ幅は、第 1 波の下げ幅の 1.618 倍程度になるでしょう。この前提から、第 3 波の目標値として 120 円台前半が導かれます。



【日足 エリオット波動分析】

4 月安値 139.877 円からは⑤波によるドル高・円安とみられます。

⑤波の内部構造は非常に複雑ですが、「ジグザグ-トライアングル-ジグザグ」(w)-(x)-(y)と読むことが、現状ベターです。この波動カウンティングからは、146.575 円(10/1)からのドル高・円安が(y)波に当たります。

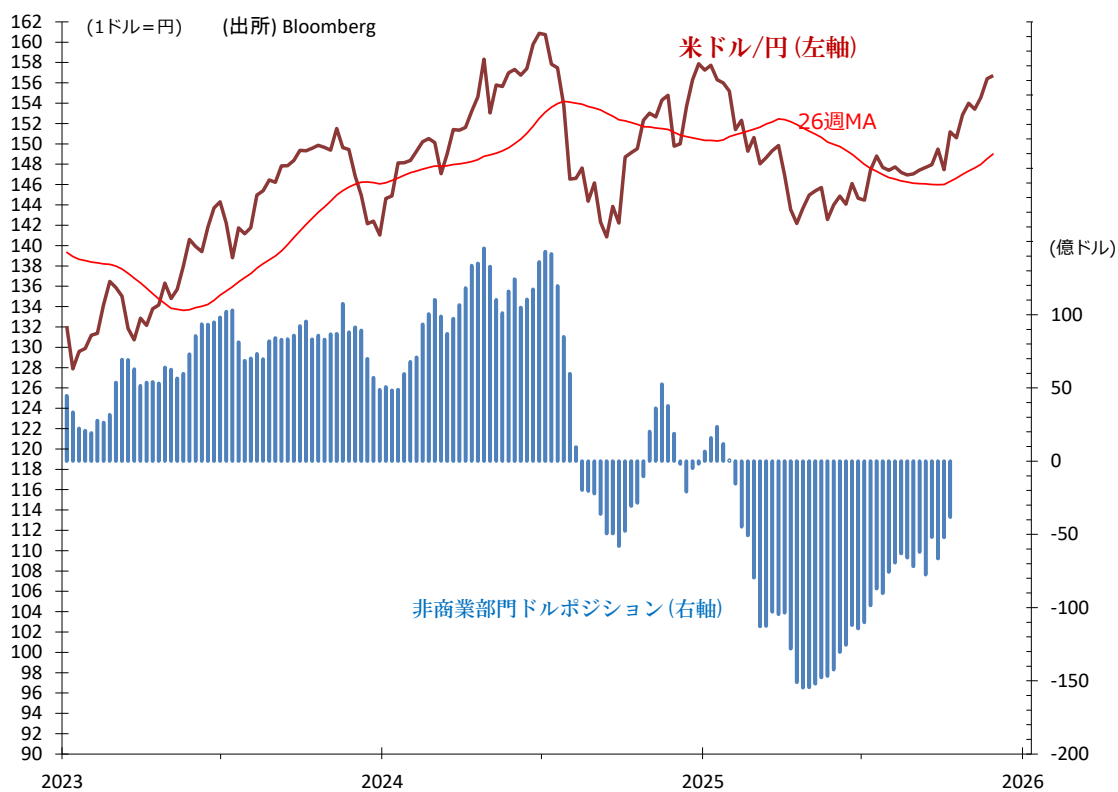
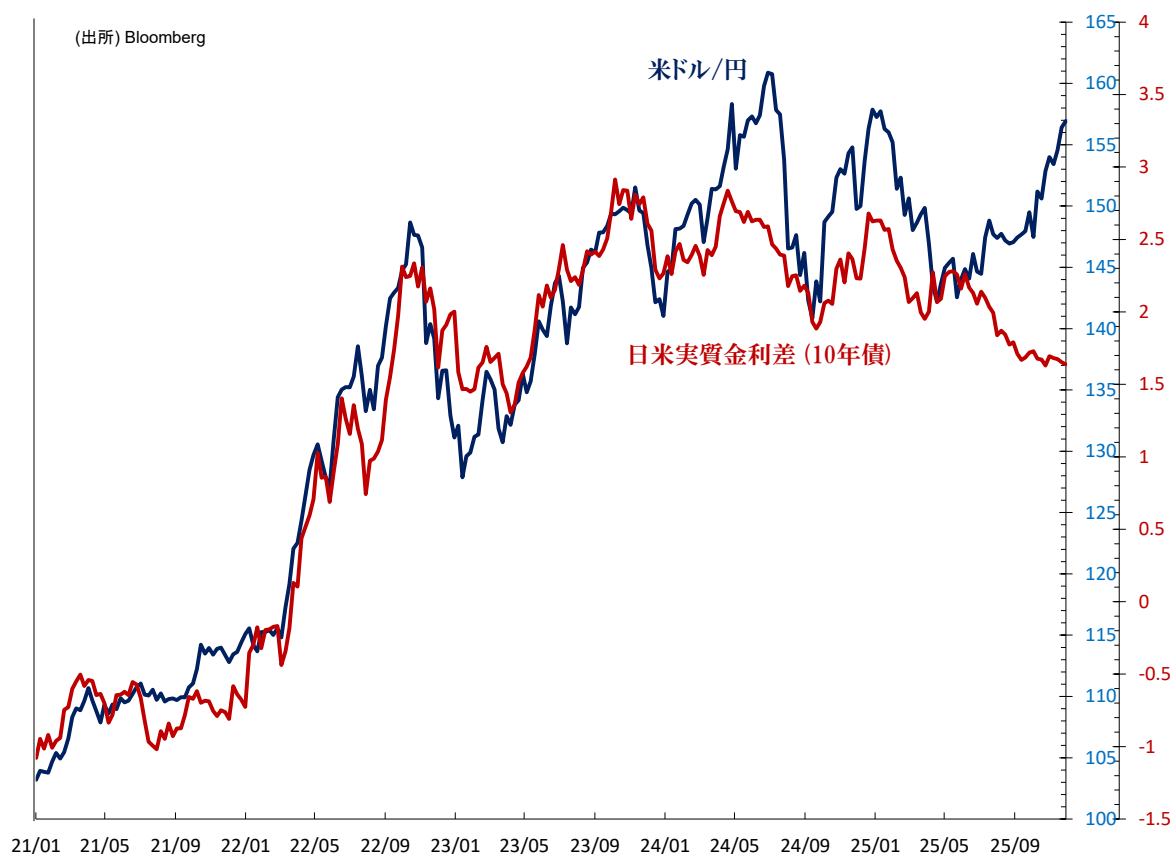
目先的には 11 月 22 日安値の 156.200 円処の去就が注目されます。156.200 円を割ると(y)波の終了が示唆されることになります。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.910 円]です。

投機筋の円買い持ち高は 2 月以来の低水準(2025 年 10 月 7 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、今年 2 月以来の低水準(38.2 億ドル)に縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

A波の最終局面（マル iv 波-マル v 波）と C 波の最終局面（口で囲った箇所）は相似しており（フラクタル）、A 波完了後の持続的なドル高（当時は 23 年 7 月中旬～10 月上旬まで 12 週間のドル高でした）が、今や再現されようとしています。

96.218(9/17)を以て 22 年高値からのジグザグ(A-B-C)は終わり、そこから大きなバウンド局面(X)波が展開中です。

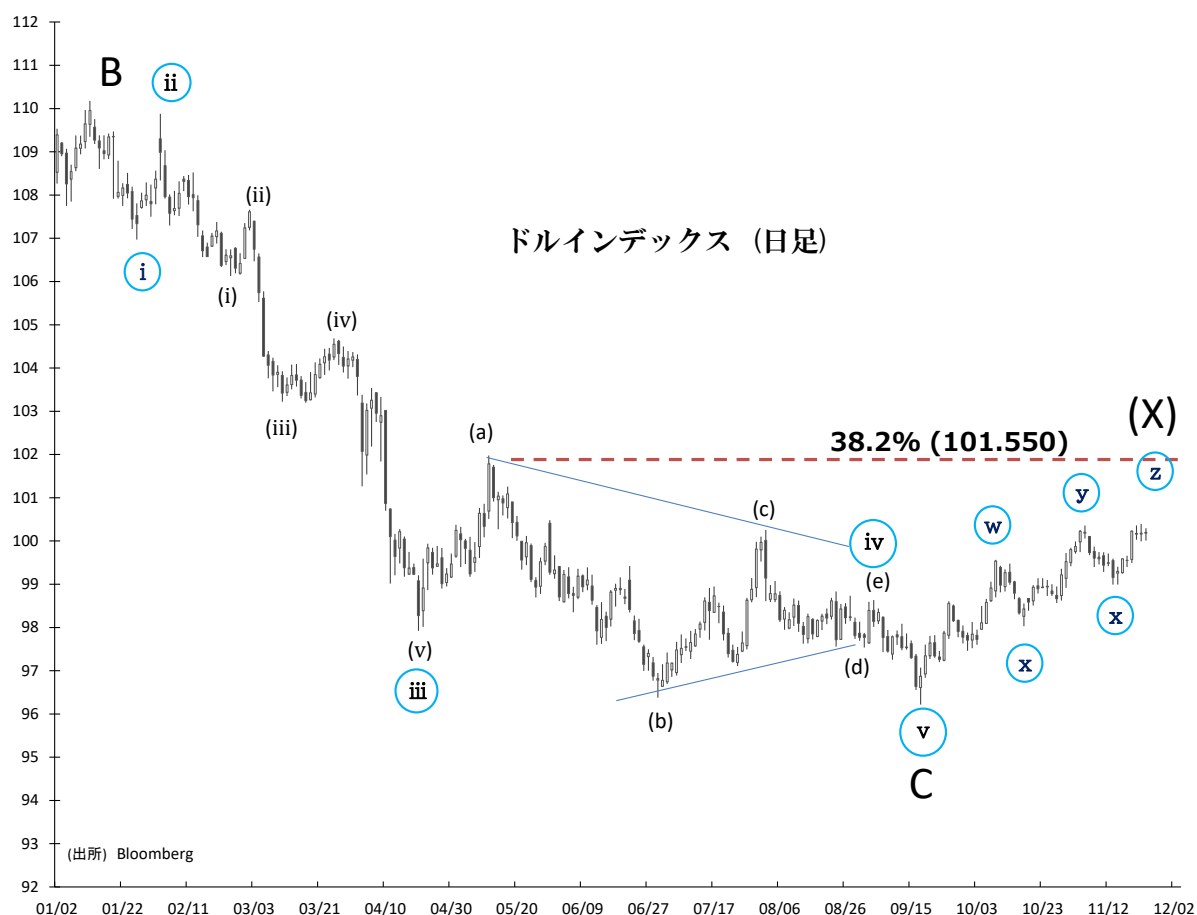
この(X)波の全容は「トリプル・ジグザグ」を想定。足元では 3 番目のジグザグが展開中とみられます。ターゲットは[101.550]付近です。11 月 21 日には一時 100.395 に上昇、約半年ぶりドル高となりました。

[101.550]…C 波のドル安に対する 38.2%戻り水準

A 波終了後にみられた持続的ドル高 (㊟波) は、A 波のちょうど半分を戻しました。今回も同様なら、遠からず C 波の半値戻り水準**[103.197]**に達する可能性があります。

長期的にはドル安 (㊟波) 基調は継続し、2026 年には一段とドル安が強まるでしょう。

筆者は、ドル安㊟波は短くとも 2028 年頃まで続くと考えています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
